

学校教育ビジョン 学校教育目標:豊かな心を持ち、たくましく生きる、湖北の子を育てる。
 ・自分も他者も大切に、心豊かな子を育てる。 ・確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ子を育てる。 ・健康で、心身ともにたくましい子を育てる。 ・家庭・地域と連携し、郷土を愛する心情を育てる。

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	判定結果	成果と課題	対 策
教育課程 学習指導	「わかる」「できる」喜びを子どもと分かち合うことのできる実践に取り組み、確かな学力の向上に努める。	帯タイムの利用や、算数科を中心とした指導法の工夫・改善により、基礎・基本の定着を図る。	教科研究・学力向上推進委員会	帯タイムや指導の改善で、漢字は少しずつ力がついてきているが、計算については十分ではない。	【成果指標】 学年として必要な基礎的な学力(漢字力、計算力)が身につけている。	学年相当の漢字・計算のテストの平均が A:9割以上である B:8割以上である C:6割以上である D:6割未満である	C、Dの場合はチャレンジタイムや指導法の改善を再検討する。	学期末の確認テストで点検	B	チャレンジタイムの充実や、放課後や夏休み・冬休みを利用しての補充学習、話し合い活動を取り入れた授業公開などに取り組み、授業がよく分かると思える児童は9割を超え、また、漢字・計算テストの結果も8割を超え、基礎的な力が少しずつついてきている。	チャレンジタイムの充実に向けて、内容について検討していく。また、個別の指導など補充学習の充実を図る。学習ルールの徹底を図り、ノート指導にも取り組む。
		自主勉強ノートを推進し、自己学習習慣の形成に努める。 自主勉強ノートの展覧会など、児童の意欲を高める取り組みを行う。		自主勉強の習慣づけはかかってきた。しかし、なかなか取り組みえない子が固定化してきている。また自主勉強の内容についても個人差が大きい。	【成果指標】 学年相応の家庭学習の習慣が身につけている。	工夫して自主勉強ノートに学習することができる児童は A:8割以上である B:6割以上である C:4割以上である D:4割未満である	C、Dの場合は自主勉強の取り組みを再検討する。	7月・12月にアンケート調査実施	B	かめノートについて内容王や時間王の表彰や、ノート展示をして保護者にも家庭学習の認識を深めてもらうよう取り組み、少しずつ家庭学習に取り組む姿勢ができてきた。しかし、取り組みえない児童が固定化しており、家庭との連携が急務である。	家庭学習に取り組めない児童について家庭と連携し、学校全体としての取り組みが必要である。かめノートの指導についても、評価の仕方など職員の間で共通理解のもとより細かな指導を行っている。
		「思いやり」の心を持ち、相手の立場に立って親切にする子、「目標」を持ち、あきらめずに取り組む子」を育てる。	話し合い活動を大切にされた道徳学習を核として、道徳の授業の充実を図り、かつ授業以外の場面でも意識付けの機会を計画的に繰り返し持つ。	研究推進委員会	思いやりの心や、あきらめずに取り組むことの大切さはわかってはきているが、実践化と言う面ではまだ十分とはいえない。	【成果指標】 子どもたちが重点目標を意識した行動がとれる。	道徳アンケートの結果、重点項目を達成できたと思える児童は A:9割以上である B:8割以上である C:6割以上である D:6割未満である	C、Dの場合は指導法の改善を再検討する。	5月と12月にアンケートを実施	B	話し合い活動を取り入れた授業研究や、自作資料を作成し、教材の開発を行った。また、指導案検討や模擬授業を行い、道徳授業の充実を図った。しかし、道徳の実践力はまだ付いていないと言えない。
生徒指導	基本的な生活習慣を確立して、誰とでも仲よくできる子を育てる。	縦割り活動を活用し、異学年交流を進め、高学年と低学年がかかわる機会を増やす。	生徒指導主事 児童会担当 各学級担任	同学年同士では仲よく遊べる子は多いが、異学年交流は苦手である。	【成果指標】 同学年だけでなく、異学年と仲よく活動することができる。	同学年だけでなく異学年と仲よく活動できた児童が A:8割以上である B:6割以上である C:4割以上である D:4割未満である	C、Dの場合は指導のあり方を再検討する。	7月・12月にアンケート調査実施	B	集団登下校や、児童会中心の縦割り活動、縦割りによる清掃も行われ、異学年の児童と交流できたという児童は増えてきている。しかし、休み時間の交流はまだ多いとは言えない。	児童会による企画を、計画的に実施し、学校全体で盛り上げて取り組むようにしていく。異学年で遊べる機会を増やすなど、縦割り活動も工夫して計画的に進めていく。
進路指導 生き方指導	人とのふれあいを大切に、他者への思いやりと感謝の心を育てる。	児童会や委員会が中心となり出会った人にあいさつできるように、また清掃活動に一生懸命取り組み事ができるようにする。	生徒指導主事 児童会担当 各学級担任	あいさつできる子や掃除ができる子は多いが、十分ではない。	【努力指標】 すすんであいさつしたり、一生懸命掃除したりすることができたか。	すすんであいさつしたり、一生懸命掃除したりすることができた児童が A:8割以上である B:6割以上である C:4割以上である D:5割未満である	C、Dの場合は取組体制を再検討する。	7月・12月にアンケート調査実施	B	児童会による挨拶運動も工夫され、挨拶する児童も増えてきた。また、清掃活動は無言清掃などにも取り組み、まじめに取り組む児童が増えている。	挨拶運動は、学校・家庭・地域と連携して行う。清掃活動も引き続き無言清掃など工夫して行う。児童が主体となって取り組む活動を充実させていく。
安全管理	学校生活における安全、非常災害時の安全意識を高め、危険予測・回避能力を育てる。	防災・防犯の訓練時に危機管理マニュアルの確認と、事前指導の徹底を行う。	教頭	地震・火事・不審者に対する避難訓練時に私語がみられ、真剣さが足りない場面がある。	【成果指標】 緊急時の対応マニュアルに従って主体的に、児童及び教職員が行動できる。	避難訓練時に、児童・教職員が適切に行動できたと感じる教職員が A:9割以上である B:8割以上である C:6割以上である D:6割未満である	C、Dの場合は取組体制を再検討する。	年3回の訓練実施後に調査	A	地震・火事・不審者の避難訓練について事前指導をしっかりと行うことで、私語も少なく、真剣に取り組むことができた。しかし、休み時間による避難訓練は実施できなかった。	休み時間の避難訓練を実施し、児童自ら危険を予測したり、危険から回避する能力を育てていく。
保健管理	自分の身体に関心を持ち、健康や体力について考える子を育てる。	各担任による学級指導や養護教諭が行う保健指導、健康委員会の活動を通して、全校への啓発活動を行う。	担任 保健主事 養護教諭	健康な生活をしようとする意識はあるが、実践に移すことがなかなかできない。習慣化されていない子がきまっている。	【成果指標】 健康的な生活を送ることができる。	早寝・早起き・朝ごはんの習慣がついている児童が A:8割以上である B:7割以上である C:6割以上である D:6割以下である	C、Dの場合は指導の改善を再検討する。	7月・12月にアンケート調査実施	A	早寝・早起き・朝ごはんの必要性について、学校保健委員会でも指導し、意識は高まってきている。しかし、1割程度の児童が習慣化されていない。家庭と連携しての取り組みが必要である。	食育指導や保健指導について年間指導計画の見直しを行い、丁寧に指導を続ける。また、お便り等で情報を家庭へ提供し、協力を依頼する。
		長休みにマラソン運動やなわとび運動を行ったり、スポチャレいしかわにチャレンジしたりして、体力の向上に努める。		学校保健・体作り推進委員会	マラソンやなわとび運動を行っている児童の取り組みが積極的な児童とそうでない児童とが二極化している。	【成果指標】 マラソンやなわとびに積極的に取り組むことができる。	湖北マラソンで、各学年の目標距離を達成した児童が A:8割以上である B:7割以上である C:6割以上である D:6割以下である	C、Dの場合は指導の改善を再検討する。	12月に湖北マラソンの達成状況を調査	A	業間タイムを利用して、マラソン・縄跳び・スポチャレに継続して取り組むことができた。スポチャレは全種目を全学年で取り組んだ。
特別支援教育	個に応じた指導の工夫と研修の充実を図り、児童を支援する協力体制を整える。	校内委員会を定期的に開催し、情報交換や支援の必要な児童の把握に努める。専門相談員派遣制度を利用して全体研修会を持つ。	特別支援コーディネーター、特別支援委員会	行動面や対人関係面の支援を必要とする児童について校内委員会で支援方法の検討や実施を行うことができた。しかし、学習面で支援が必要な児童への支援が十分でない。	【努力指標】 専門相談員を招き、学級担任や保護者との懇談及び、全体研修会を実施し、指導方法の工夫や改善に努めたい。	特別支援教育の研修の実施や指導方法の工夫改善に A:十分努力している B:おおむね努力している C:あまり努力していない D:ほとんど努力していない	C、Dの場合は再検討する。	学期ごとに教職員対象に調査	A	特別支援リーフレットの学習会や専門相談員の派遣、夏休みの研修会を通して、特別支援教育の充実が図られ、個々の児童について指導法の改善や工夫がみられた。	困り感のある児童に対して行っている支援の引き継ぎを行い、継続した支援を行っている。
組織運営	各分掌がそれぞれの役割を果たし、組織が一体となった活力ある学校運営をめざす。	組織的な学校運営のために研究・教科・保健の三委員会を定期的に開催するとともに、各分掌が互いの連携を密にする。	各主任 各分掌	三委員会を中心に各分掌はそれぞれ機能しており、今後さらに計画・実施・評価・改善のサイクルを意識しながら組織的な連携が必要と思われる。	【努力指標】 各校務分掌で取り組みについて計画・実施・評価・改善を行いその現状が全職員に理解されるよう努めている。	それぞれの担当する分掌の取り組みが全職員に理解されるように A:十分努力している B:おおむね努力している C:あまり努力していない D:ほとんど努力していない	C、Dの場合は校務分掌で取り組み体制を検討する。	学期ごとに教職員対象に調査	A	三委員会が機能し、それぞれの取り組みについて計画・実施・評価・改善が全職員共通理解のもと進められた。	評価結果について分析・考察し、全職員共通理解のもと、改善方法を見つけて進めていく。
研修	校内研修に積極的に取り組み、授業改善に努める。	事前研究会、事後研究会、教材研究、指導法研究の充実	研究推進委員会	研究主任を中心に校内研修に積極的に取り組み、成果は上がってきている。さらに、授業改善につなげたい。	【努力指標】 校内研修会の内容を充実させ、日頃の授業改善に役立つよう努力する。	校内研修会を授業改善に役立つよう A:十分努力している B:おおむね努力している C:あまり努力していない D:ほとんど努力していない	C、Dの場合は研修会の内容、持ち方を再検討する。	年度末に教員を対象に調査	A	事前研究会や事後研究会、模擬授業など、研究主任を中心に校内研修会が活発に行われ、授業改善の成果は少しずつ上がってきている。	児童の実態を把握し、教材の開発や指導法の工夫など研究授業を充実させる。また新学習指導要領に基づき、指導計画の作成や内容の取扱いについて研修の充実を図る。
保護者、地域との連携	学校・家庭・地域との連携を基に、学校・家庭連携目標の充実・推進を図る。	学校・家庭連携目標で「良い習慣作り」を継続し、習慣化を図る。月に1週間ふり返りカード(親子でげんまん)をつける。	教頭 学年委員会	習慣化を図るために、ふり返りカードを活用しているが、毎日つける習慣はなかなか定着していない。	【成果指標】 ふり返りカードを忘れずにつけ、親子でふれあいを深めることができる。	各家庭で決めた親子のふれあいをできた家庭が A:9割以上である B:8割以上である C:6割以上である D:6割未満である	C、Dの場合は再検討する。	毎月のふり返りカード提出後に集計	B	親子でげんまんカードの取り組みは年間を通して行われ、基本的な生活習慣の確立や親子の触れ合いにむけて効果は上がってきている。しかし、全く取り組めていない家庭もある。	引き続き親子でげんまんカードの取り組みを行っている。取り組み期間中は呼びかけ等行い、取り組みがより充実して行えるようにする。
教育環境整備	校舎内外の安全点検を実施し、施設設備の改善を行い、より安全な環境作りを努める。	安全意識の日常化と施設設備の改善を図り、安全面で、危険箇所や使いにくい場所について児童への注意喚起を行っている。	教頭 各担当	児童・保護者・地域の人の満足度は高いが、安全面で、危険箇所や使いにくい場所について児童に指導が必要である。	【満足度指標】 児童・保護者・地域の人が学校の施設・設備・安全性に満足している。	満足している児童・保護者・地域の人が A:9割以上である B:8割以上である C:6割以上である D:6割未満である	C、Dの場合は再検討する。	7月・12月にアンケート調査実施	A	毎月安全点検を行い、施設設備の改善に努めた。危険箇所については、児童への注意喚起も行った。児童・保護者・地域の方の満足度も高い。	危険箇所の注意喚起や施設・用具の安全な使い方について引き続き指導していく。

学校関係者評価 学校教育ビジョンに従って現状を把握し、具体的な取り組みがなされ、評価結果はB判定以上で概ね達成されている。成果と課題についても実態をしっかりと把握して記され、今後の対策をもとにさらに努力してほしい。
 確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ子を育てるよう、チャレンジタイムの充実や補充学習、授業改善を行い、学校の努力の様子が伺える。今後は、さらに、読書の習慣をつけることにも努めてほしい。
 異学年交流については、帰宅後や休日に異学年と遊ぶ機会も少なくなり難しいと思うが、いろいろな活動を工夫して取り組んでほしい。
 挨拶については、見守り隊の方にも子どもから挨拶できるようになってきた。今後は学校と家庭、地域が一体となって取り組まなければいけない。
 学校保健委員会は、健康委員会の発表も素晴らしく、講演会も高学年の児童と保護者が一緒に聴けるもので良かった。今後は低学年の児童も参加できる会を工夫してほしい。
 「湖水の風」の全戸配布は好評である。子どものいない家庭も学校の様子が分かり、楽しみにしている。五日制行事の参加が伸び悩んでおり、イベントの工夫が必要である。児童の休日の過ごし方についての把握も必要である。親子でげんまんカードは素晴らしい取り組みなので、より充実した取り組みになるよう続けてほしい。